

「スキャルピングトレード戦略」

～メンタル編：短期売買指針～

文責：福寄 儀寛

FXはとても心理的なものです。
そして、だからこそ難しい

トレードには多くの知識と判断材料が介在します。
そして、その中で誰もが一度は短絡的で「必勝法的なもの」を探し求めます。

しかし、私は「それ」は無いと思っています。
少なくとも私は必勝法の類を意識してトレードしたことはありません。

ただ、それでもFXは勝ち残れるし資産を増やす事ができます。
大切なことは、投資を知ると共に「自分を知る」こと。

- 自分にできる事が何か(得られる情報範囲も含む)
- 資産を増やす上で「やるべきこと」と「やってはいけないこと」は何か

この2点を理解し、「自分が勝てるルール」を実践する事が大切です。

短期売買戦略＝「ルールで勝つ」

1. 短期トレードの概要
特性・メリット・デメリット・注意点など
2. 福寄式短期売買の指針
「適正なルール」を立てて、それを実践する。それにあたって必要な要素を知る。
 - 売買指針（どんな時間軸でもエントリーはフォロー）
 - 淡々と強いメンタルを持つために（トレードに納得感と根拠を持つ）
 - 得意パターンの確立（場面選定）
 - トレードの適正をしっかりと反省（適正＝期待値幅×勝率）
3. 誰にも訪れるドローダウンポイント（大負けパターンを把握）
一部の勝ちパターンだけで自己認識しない
※部分最適だけされていて、全体認識ができていない事が多い
⇒これがリスク/リターンの合わない投資に繋がる。

短期トレードのメリットは色々あります。
主要な点としては「取引機会を増やせる」事と
「週末持ち越しなどの期間リスクを避けられる」事。

上記に付随して下記のような利点もあります。

- ・トレード回数が増えるので経験値の溜まり方、投資力の成長速度が(正しく学んでいた場合)早い。
- ・エントリーからクローズまで集中力をもって投資できる。
- ・特定の場面(時間帯、パターン)に特化した戦略を取りやすい。
※個人投資家の一番の武器「やりたいとき、好きな場面だけ参加する」という利点を活かせる。
- ・「運」や「情報戦」ではなく「ルールの適正≒場面選定の適正」で勝負できる。(そのためには多くの試行回数、多くの利食い&損切りが必要)

短期トレードのデメリットも勿論あります。
「リスクコントロールが難しい」事と
「意味不明な値動き(ノイズ)に巻き込まれる」事。

リスクコントロールの難しさは

- ・ポジションサイズのコントロール(大きくなりがち)
- ・期間コントロール(切るべきポジションを適性に切って短期で締める、ができない)

から来る難しさです。これは短期だけではなく中長期もある程度経験していないと最終的には身につかない感覚かもしれません。短期取引しか経験値がない人は、「なにはなくとも逃げる」癖を最初は持つと良いかもしれません。

また、「ノイズ」とは相場材料に関係無い理不尽な値動きです。これは、中長期でも起き得ることですが、頻度と理不尽感が違います。しかしデメリットではありますが、短期ポジションの傾きなどを意識する契機ともなります(短期のノイズは大口のカバーが何かの材料で走る場面が多い。) 市況材料と、市場の傾きを意識する癖がつきます。

「焦らないこと」です。
自身の成長 & 損失の回復を焦らない。正しいルールを
淡々と実践できるようになれば、資金はついてきます。

上記はもっと具体的にいうと単純です。

「一発勝負をしない」ことです。

勝つのも負けるのも、ある程度リスクを分散させて重ねて行きましょう。
但し、取引を当初の想定より引っ張って良いのは、利益が乗っている時だけ。

人間は完璧ではないので、間違っただ取引や判断はゼロにはできません。
それを「判断間違えたな、仕切りなおそう」とサッと一旦引ける体制を整えて
おくことが大切です。

多くの退場者は上記を実践できず
「取引を当初の想定より“悪い形で”引っ張る」ことで発生します。

大切なことは「どんなに短期の売買であっても
小さな時間軸のトレンドフォローを起点とする。」

チャート等を用いた、より具体的な手法は第2話でお伝えするとして
ここでは勝ちパターン策定の指針をお伝えします。

- ・主に見るチャート:5分足(より大きな方向感を把握するために4Hと日足も見つつ)

その際の心境は

- ・短期売買だからといってむやみに逆張りはしない。

ノイズやレベル感からの不確定な要素を利食っていくのではなく、少し大きな時間軸に繋がりそうな「より小さな時間軸のブレイクポイント」を狙います。

これは「レベル感を用いた逆張り」よりも勝率は下がりますが値幅が大きく取れます。
基本指針は値幅を有利に抜いていく意識。そのうえで「勝率は場面選定で補完」
これが私の短期売買ルールです。

エントリー時に意識すべきこと。
「場面選定」と「自身の納得感」。そして、
「このトレードの正当なリスク/リターン」を確認。

(1) 場面選定について

⇒TOKYO市場か、LDN～NY市場か。雇用統計までの月初か月半ばか、最終週か、リスクイベントの有無や指標はどうなのか、そういったことを考えています。

少し抽象的な言い方になりますが

「相場にエネルギーがたまっていく場面(フラフラした状態)」なのか、「張りつめて弾けそうな場面」なのか、「ブレイク中もしくはブレイク後の揉みあい」か、等をIMMポジション状況等も見ながら感知しておきます。

方向感がない場面は逆張りで攻めます(TOKYO市場、IMM偏り無し、ドル円など)
方向感がある場合はフォロー主体で攻めます(LDN～NY市場、切り下げ切り上げ)

「自分の納得感」をあらかじめ用意しておく。
「何を狙ってたんだっけ？」とならないために。

(2) 自分の納得感というのは「淡々と回転させる際の精神的地盤」となります。

短期相場を目の前にして上や下に回転させていると
勝っているときは良いのですが、含み損を抱えたときに
「どこで切ればいいんだっけ？」と迷いが出ます。

この迷いは「資金への執着」を産み出します。
「あと少し戻るまで、、、」とか「ここでは切れない」といった自分の
弱い心が出てきてしまいます。

冷静なとき(≡ポジション無し)は持たないこうした弱い意識が
短期売買のポジションコントロールを大きく阻害します。

そんな時「自分はこれを狙っていた」という目的と、そのための撤退ラインが
明確に思い出せれば、次につなげやすくなります。納得感ある撤退ライン
とその理由を、エントリー時に心の中に用意しておきましょう。

2. 具体的手法 - 納得感ある場面のチャートイメージ



自分のルールに忠実でシンプルな場面を選定。



実践編で細かいチャートの事例はお伝えしますが、左図のような場面は自分の好きな波形です。

高値安値・現レートの位置とトライする際の値幅間隔と、MA20、MA5、現レートの並び順が方向感が出ていること。

また直近の抵抗ラインを上抜けてきたこと、など。

かなり具体的に好きな場面の理由が言及できます。

もっとも簡単なのは
「より大きな時間軸のチャートをセットで見る。」ことです。
私の場合、5分足と4時間足をセットで見ることが多いです。

普段から二つの時間軸を平行表示してみる癖をつけています。5分足はHigh/Lowの値幅が約40~60Pips。4時間足では約400Pips。自分がどの方向を狙ったとしてもこの直近値幅の半分~100%程度のリスクは想定しておきます。

重要なのは、時間軸を踏み外すとこれだけ大幅な値幅のアゲインストがあり得ることを意識しておくことにあります。

私の場合、先に確実に撤退するラインを探すことが多いです。



上図がUSD/JPYの5分足。
下図がUS/JPYの4時間足。

投資の成否判定と反省は 期待収益のリスクリターン比と勝率で判断。

短期売買取引は人それぞれに手法を確立されているので完全に感覚で行っている方、損益重視でチャートも見ない方、など様々な価値観で行っている方も多いかと思います。

私の場合は、短期売買は非常にシンプルに

- ・リスク:リターン比が折り合う場面であったか
- ・勝率として5分以上を期待できる場面であったか

を振り返って反省と評価をします。

この2条件がそろっている場合は、練度やメンタルが少々至らなくとも損小利大が成立することが多いです。

個人投資家の一番の強みは情報でも、練度・ハンドスキルではなく「場面選定」と安定して反復可能な投資ルールの確立、にあると思っています。

どれだけ投資を続けてきても
時に投資家は納得しがたい負けを経験します。
その理由と典型例を知ることで頻度を減らす。

といっても、この項では難しい話はしません。例示程度です。

投資手法やルールは正しいのに、全くそれと関係のない部分
自分の油断や恍惚感で(トレード手法と全く関係ない部分で)
退場する方は多いです。その要因を例示していきます。

これは、性格や環境にもある程度依存しますが、多くの場合
「FX投資につきものの必ず訪れる魔物」です。

この要素も自分の投資の一部として想定しておきましょう。

複数のルールを都合よく使い分ける。
チャートや情報ソースを多く取り入れている方に
ありがちです。解釈の幅のない厳格なルールが
好ましいと考えます。

大切なもの

- ・ニュートラルで冷静な価値判断
- ・狙っているリターンと最大リスクの把握
- ・ルールがそこにあるか、自分の実績を把握しているか

失敗する原因になるもの

- ・過度な興奮/期待/見栄/執着。この状態であれば一旦はEXITすべき。(EXIT後の持ち直しはFXの場合簡単。)
- ・自分に都合の良いチャートの見方、時間軸の変更
- ・ただP/Lだけを見てトレードし出すと×(色々な意味で)

P/Lだけ見て取引。
射幸心や世の中の動静、外部メディアなどを
指針としてしまい、自己基準を確立できない。

大切なもの

- ・ニュートラルで冷静な価値判断(常に淡々と勝つ&負ける)
- ・ほんの少しの「覚悟」。怖いのはお金を失うことではなく、退場や自身に負けること。儲ける意識が強いと覚悟が持てない。
- ・裁量の余地のない厳格なチャート。

失敗する原因になるもの

- ・過度な興奮/期待/見栄/執着。この状態であれば一旦はEXITすべき。(EXIT後の持ち直しはFXの場合簡単。)
- ・自分に都合の良いチャートの見方、時間軸の変更
- ・口座残高を気にする、見続ける。(見るべきはレート&チャート)

微損撤退をできるようになる。
「あと少し戻したら。。。」or「あと少しお金を増やしたら。。。」という日常の金銭感覚を排除する。

繰り返しになりますが、、、

「自身の欲やお金の問題、都合は相場には関係ない。」ということ。であれば、その余計な感情を排除して、良かれと思うことを行い続ける。最初は失敗もする、でも最適化していく、そういう競技だと思えることが一番大切です。

お金だと思って余計な感情を引き込むと、たいていの場合良い結果になりません。

理屈ではなく「微損撤退」や「買い上がり/売り下がり」といった損益コントロールを実践できるようになると、単なる技術以上に投資の幅と口座資金の増減度合いが変わります。

<リスク開示>

このセミナーは、情報提供を目的としており、FX取引の勧誘を目的としたものではありません。また、実際の市場動向とは異なる可能性があり、断定的判断を提供するものでもありません。当該セミナーの内容を予告なく変更する場合があります。

当該セミナーの内容および資料のご利用によりお客様に損失が生じた場合であっても、当社および当該セミナーの講師（所属会社を含む。）は一切の責任を負いません。お取引につきましては、お客様ご自身の判断と責任において行っていただきますようお願い申し上げます。

なお、セミナーに関する著作権は、当社および作成者に属します。

お客様の私的使用目的以外での使用、他人への譲渡や販売または再配信等を行うことはできません。

<注意喚起>

店頭外国為替証拠金取引は、元本や利益を保証した金融商品ではなく、為替レートの変動等による損失発生可能性があります。さらに、レバレッジ効果（想定元本と比較して少額の資金で大きな取引ができる仕組み）や為替レートの変動等によって注文（ロスカット注文を含む）が約定しない場合等、元本を上回る損失発生の可能性があります。

特に、マイナー通貨（流動性の低い通貨）の取引をされる場合、元本以上の損失発生の可能性が高くなります。加えて、スワップポイント（通貨間の金利差調整額）においては通貨ペアやポジションの状態（売りまたは買い）によっては、受け取れる場合もあれば、支払わなければならない場合もあります。

当社は、インターネットを通じて店頭外国為替証拠金取引サービスをご提供しておりますので、お客様のパソコン・インターネット環境や当社のシステムに不具合が生じた場合等、取引ができなくなる可能性があります。また、お客様の取引の相手方は当社（相対取引）となっており、取引所取引とは異なりますので、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、内容をご理解の上、ご自身の判断により取引を行っていただきますようお願いいたします。

商号：ヒロセ通商株式会社

業務内容：第一種金融商品取引業

登録番号：近畿財務局長（金商）第41号

加入協会：金融先物取引業協会会員番号1562